

第3学年2組 社会科学学習指導案

学習指導者 大平 理茶子

1 単元 工場の仕事「地域と生きる豆腐工場」～「Hello」を紡ぐカンショクの思い～

2 単元の目標

地域に見られる工場の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり、地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめる活動を通して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人の生活との関連を考え、表現することを通して、工場の仕事が、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 単元について

- (1) 本単元は、学習指導要領第3学年内容(2)アー(ア)(ウ)及びイの(ア)「仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること」を受けたものである。

本単元で扱うカンショクは、本市柞田町の豆腐工場である。校区には、様々な工場があるが、その中でもカンショクの特色は、生産者と地域の消費者との密接な関わりである。専務取締役の秋山さんは、昔ながらの製法を守りつつ、直売所を工場の隣に設置し、消費者の声を聞いて新商品を開発したり、地域に根差した商品を製造したりしている。単元を通して、製造行程や出荷先の様子等を秋山さんの思いと関連付けながら学ぶことを通して、地域社会への誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚が涵養されると考える。

- (2) 本学級の児童は、今年度から始まった社会科の授業に意欲的に取り組む児童が多く、資料から読み取ったことを整理した後に行う「Qタイム」には、多様な意見を出すことができる児童が多い。また、そのQについて自分の考えが出せなくても友だちの考えを聞いて「〇〇さんのおかげで納得した」「次は〇〇さんのような考え方をしたい」と友だちの考えの良さから学ぼうとする児童も多い。しかし、実態調査によると、約4分の1の児童は根拠を明確にして自分の意見を述べることに苦手意識をもっている。また、今回取り上げるカンショクについて認識していたのは2名のみで、ほとんどの児童は「柞田町で作られているもの」としてイメージするものの多くは農産物であった。つまり、児童の多くは、地域の工業製品と自分たちの生活が密接に関係しているという意識は希薄であると言える。そのため、校区内にある工場で働く人や工業製品について学習することで、工業と地域との密接な関わりを理解し、地域社会への誇りや愛情を高めたい。

- (3) 本単元では、単元の導入で、観音寺市の工業製品のうち最も多いのは食料品という事実に出合わせる。その中でも、本校校区で子ども達の身近にあるカンショクを取り上げ、カンショクの豆腐は、自分たちの家庭で食べられたり、普段口にしている給食に使われていたりするだけでなく、県内シェア1位であることを知らせ、「わたしたちがいつも食べている豆腐は、どのように作られているのだろうか？」という単元の問いを成立させる。

本時の導入では、既習でカンショクの商品は県内シェア1位であり、県内の多くのスーパーで販売されていることを知っている児童に、コロナ禍の苦難を乗り越えて直営店を開店させた事実に出合わせ、学習課題をつくる。既習事項をもとに全員が自分の考えをもてるように、数名に考えと根拠を発表させて、考える時間を取る。予想が出た後、秋山さんの思いをより深く理解させるために、キャッチコピーの「Hello カンショク」に着目させる。関係図を用いて「Hello」の向かう先を考えることで、秋山さんの地域の人への思いに気づかせる。本時の終末では、本時の板書をもとに、納得ポイントが何だったかをふり返らせる。既習事項や、立場を広げた考え、友だちの考え等で納得できたことを実感させ、今後の学習につなげられるようにする。

4 学習指導計画(全12時間… 本時10/12)

次	時数	学習活動
一	2	カンショクの豆腐について話し合い、学習課題や学習計画をつくる。
二	4	カンショクを見学し、機械や働く人について調べ、豆腐の生産工程について理解する。
三	4	豆腐工場で働く人は、どのような思いでどのような工夫をしているのか理解する。(本時10/12)
四	2	これまでの学習をふり返り、カンショクで働く人の工夫や思いについて紹介カードにまとめる。

5 単元構成 (全12時間+2時間)

第一次	第1次(3時間) カンショクの豆腐について話し合い、学習課題や学習計画をつくる。	
	1時間目	問 私たちの地域には、どんな工場があるのだろう？ 市内の工場の分布や製品を調べた後、柞田町にあるカンショクの豆腐は、普段自分たちが食べている給食に使われたり、県内のスーパーで多く取り扱われたりしていることを知る。
	2時間目	観音寺市の多くの人がカンショクの製品を食べていることを知ることで、生産工程や働く人の様子に学習課題をもち、学習計画を立てる。 【単元を貫く問い】 私たちがいつも食べている豆腐は、どのようにして作られているのだろう？ 【学習計画】 I 豆腐工場に見学に行き、豆腐の生産工程について調べる。 II 働く人の工夫や様子について調べる。 III できた豆腐は、どうなるのか調べる。
	3時間目	問 見学で、どんなことを聞くと工場のことがよく分かるだろう？ 工場で調べたいことを話し合い、見学の視点(材料・作り方・人の仕事・機械)等を明確にする。
第二次	第2次(3時間) カンショクを見学し、機械や働く人について調べ、原料や豆腐の生産工程について理解する。	
	4・5時間目	問 カンショクの工場ではどんなことをしているのだろう？ 実際に見学に行き、機械や働く人について触れ、原料や豆腐の生産工程について理解する。
	6時間目	問 どのようにして、大豆が豆腐に変わるのだろう？ 大豆が豆腐になるまでの工程について分かったことをMy豆腐の書(仮)にまとめ、原料となる大豆の仕入れ先や、挽く・炊く等、多くの工程を通して豆腐になっていることを理解する。
第三次	第3次(5時間) 豆腐を作るために工場で働く人はどのような思いでどのような工夫をしているのか理解する。	
	7時間目①	問 働く人は、どんなことに気を付けているのだろう？ 見学で見たり聞いたりしたことをもとに、生産工程で衛生面で気をつけていることやカンショク独自の工夫についてまとめる。 →カンショクさんが思いをこめて作った豆腐を食べたお客さんの反応は？
	7時間目②	問 お客さんの感想は、どのようなものだろう？ カンショクの豆腐を食べている地域の方や、保護者の声をもとに、カンショクの豆腐の魅力についてまとめる。 →やっぱり、カンショクの豆腐は地域の人に親しまれているのだな。 最近ではSNSを見て遠くから買いに来る人もいるんだな。特別な何か？
	7時間目③	問 手で作業をしているところは、何をしているのだろう？ 生産工程の中で唯一手作業でしている「型入れ」を取り上げ、手作業の手順やこだわりを理解する。 →でも、この作業は、25キロ×150回=大変！
	8時間目	問 どうして秋山さんは型入れの作業を機械にしないのだろう？ 型入れの作業を手作業にこだわる理由を考えることで、伝統の味を守り続け、変わらぬおいしさの豆腐をつくり続けたいというこだわりがあることに気付く。また、これまでの秋山さんの取り組みを手掛かりに、こだわる理由は、地域の人においしい豆腐を届けたいという思いからであることを理解する。 →思いをこめて作った豆腐は、この後、どうなるのかな？

	9 時間目	⑩ <u>つくった豆腐はどのようにして消費者に届くのだろう？</u> 取扱い店舗や交通網について調べ、カンショクの豆腐が地域の小売店で販売されていることを理解する。また、給食でも提供されていることを知らせ、普段自分たちの食生活を支えてくれていることを理解する。 →香川県一位の生産量で県内ほとんどの給食で使ったり、多くのスーパーで売っていたりするのに、どうしてお店もつくったのかな？
	10 時間目	⑩ <u>どうして直売所をつくったのだろう？【本時】</u> 生産量トップで十分なのに、直売店をつくった秋山さんの思いを考えると、できたてのおいしさを知ってもらったり、安心して食べてもらったりしたいというお客さんを大切にする思いを理解する。また、関係図を使って、どういった広がりが生まれているかを考えることで、カンショクを中心に地域の人が集まる場所をつくりたい、という地域を大切にする秋山さんの思いを理解する。
第四次	第4次(2時間) これまでの学習をふり返り、カンショクで働く人の工夫や思いについて紹介カードにまとめる。	
	11・12 時間目	⑩ <u>地域の人に、もっとカンショクを好きになってもらうためには、どんな紹介カードを書くとよいだろう？</u> 学習内容をふり返り、単元の問いに対する答えをまとめる。その際、カンショクだけでなく他の豆腐工場の工夫や努力にも言及することで、生産の仕事に携わる人全般がカンショクと同じように消費者のねがいをかなえるために、工夫や努力をしていることを理解させる。そのまとめをもとに、カンショクで働く人の工夫や思いを紹介カードにまとめ、直売店に掲示することで、地域とのつながりをより実感する。

6 本時の学習指導

(1) 目標

秋山さんが直売所をつくった理由を話し合うことを通して、豆腐のおいしさをもっと知ってもらうと共に、地域の人の交流の場をつくりたい、という地域の人への強い思いがあることに気づき、その思いに共感させ、地域への愛情を育てる。

(2) 学習指導過程

過程	学習活動	児童の意識の流れ	教師の支援と評価
問いをもつ ↓ 考える ↓ 伝え合い 高め合う ↓ まとめる ふり返る	1 前時をふり 返り、学習課 題をもつ。	・前の時間の納得ポイントは、前の資料や地図です。 ・立場を広げて、スーパーの人の立場で考えたら、こんなに売れていることが納得できました。 コロナ禍でお店を建てることも難しかったし、スーパーだけでも、たくさん売れているのに、どうして？	・ 本時の問いの見通しをもてるように、前時の納得ポイントを発表し、全員に考えの視点を意識づける。 ・ 県内での販売量や直売所ができた当時、コロナ禍にも関わらず直売所をオープンさせた苦勞を伝え、本時の課題につなげる。
	問 どうして、秋山さんは直売所をつくったのだろう？		
	2 秋山さんが直売所をつくった理由を話し合う。 (1) 予想する。	伝える ・ 柞田に住んでいてもお店のことを知らなかった。もっと多くの人に知ってもらいたいから。 ・ 出来たてのおいしさを知ってほしいから。 思い ・ お客さんにおいしい豆腐を食べしてほしいから。 ・ 豆腐以外の商品のおいしさも知ってほしいから。 ・ 型入れの技と同じようにカンショクの豆腐を守りたいから。 交流の場 ・ 直接、お客さんの顔を見たり、作っている人を知って安心したりしてほしいから。 ・ 県外のお客さんにも、カンショクのことを知ってほしいから。 ・ いろいろな人に豆腐作りを体験してほしいから。	・ 全員が自分の考えをもてるように数人に予想と根拠を発表させ、自分の考えをもつ手立てを示す。 ・ 根拠を明確にして自分の考えをもたせるため、豆腐作りにかかる思いやお客さんの声など既習事項を掲示しておく。 ・ 予想をまとめられるよう、観点別に色分けしたり、キーワード化したりしながら板書する。 ・ 自分の考えに自信をもって発表できるように、お互いの考えを共有する時間をもつ。 ・ 予想を吟味するために、自分が特に納得できた考えを発表し、その考えをつなげていく。
	(2) 予想を吟味する。		巻「Hello」って、誰から誰への言葉だろう？
	(3) 「Hello!をつなぐ場所」に込められた思いについて話し合う	・ お客さんがお店の人と会って話せるから、お客さんは安心できる。 ・ お客さん同士が会って、交流できる。 ・ お客さんが出来たての豆腐を食べることで、豆腐のおいしさに気づいて、とうふが好きになる。 ・ いろいろな体験ができる。 ・ 県外のお客さんがカンショクに来て観音寺の良さに気づいてくれる。 ・ 秋山さんもお客さんに直接聞ける。	・ 秋山さんの思いをより深く理解させるために、直売所のコンセプトを示し「Hello」の向かう先を考える。 ・ 「Hello」がお店とお客さんの間だけでないことに気づかせられるように、関係図で整理する。 ・ より具体的に考えられるように「その間でどんないいことが生まれるかな？」と問う。 ・ 秋山さんをゲストティーチャーにお招きし、直売所をつくった理由を語ってもらうことで検証する。
	3 検証する	秋山さんは、身近な地域の人を大切にできなかった。だから、直売所をつくって、豆腐のおいしさを知ってもらったり、交流の場にしたりしたかったんだね。	(評) 地域の人の交流の場とするために直売所をつくった秋山さんの思いを理解することができたか。(発言、ノート)
	4 本時の学習をまとめ、ふり返る。	㊟ 秋山さんは、とうふの良さを知ってもらったり、地域の人を大切にしたりしたいから、直売所をつくった。 ・ 見学の時の自分たちの感想や地域の人の声に目を向けると解決できたよ。 ・ ○○さんの考えで、地域の人のために直売所をつくったことに気付いたよ。	・ 板書をもとに、自分でまとめを書き、共有する。 ・ 納得ポイントが何かをふり返り、見方・考え方を働かせる良さを確認し今後の学びへとつなげる。 ・ 次時につなげるために、秋山さんの思いに共感している児童のふり返りを紹介する。